

輸入車10年前ニュース

Imported cars before ten years

'97.4

10年前の4月13日、オーガスタ・ナショナルGCが沸きに沸いた。
21歳3ヵ月、通算18アンダー(270打)、2位に12打差……
すべてが前人未踏の新記録だったのだ。
そしてこの日はまた
米国プロスポーツの中で最後まで白人の聖域だったゴルフの世界に
マイノリティがくさびを打ち込んだ歴史的な日でもあった。

資料提供: 毎日新聞社



4/1

ロードサービス業務が自由化

それまで日本自動車連盟(JAF)によってほぼ独占されてきたロードサービス業務が、規制緩和の流れを受けて民間業者に開放された。第2のJAFを目指して新たに数社が参入。草分け的存在の日本ロードサービス株式会社(JRS)を筆頭に、サービスの質や料金を競い合うようになった。自動車保険や各種クレジットカード、あるいはクルマを買うと付いてくる「無料ロードサービス」の類も、このときの規制緩和のおかげである。



日本ロードサービス株式会社 <http://www.j-rs.co.jp/>

4/1



クーペフィアットに5気筒エンジン

“クーペフィアット20V”発売。新たに搭載された5気筒インタークーラー付きターボユニットは220ps/31.0mkgを発生。従来の“16V”4気筒ターボと同じ2ℓながら、25ps/0.8mkgの向上を果たしている。価格は16V比10万円アップの330万円。クーペフィアットはこの後1999年に6段MTを得て“ターボプラス”に進化し、2002年まで販売された。

4/10

ルノー・トゥインゴにキャンバストップ

ファンタジックなエクステリアとクラスを越えた広いインテリアで、今もクルマ好きの記憶に残るルノー・トゥインゴにキャンバストップ仕様が登場した。855×710mmと広大な開口部が特徴。価格はノーマルルーフ車の5万円高で、5段MTの“バック”が148万円、クラッチペダルレスMTの“イージー”が154万円。グリーン/イエロー/ブルーの3色のボディカラー合計で245台の限定発売だった。



4/23



クライスラー・ボイジャーが日本上陸

1983年に誕生した“元祖ミニバン”の3代目が日本上陸を果たした。4750×1950×1745mmの当時としてはアメリカンなボディサイズと広大な室内を持ち、そのわりに319万円からリーズナブルな価格設定で評判に。全長を335mm伸ばしたグランドボイジャーも同時発売(365.3万円)。2000年モデルから4WDもラインナップされ、その翌年に現行型にバトンタッチした。

4/24

ブジョー406にブレーク登場

前年秋のバリ・モーターショーでお披露目されたばかりの406ブレークが早くもやってきた。セダンより165mm長いボディは、伸びやかでスタイリッシュなフォルムとワゴンとしての機能性を両立。当初はセダンSTに準じるモノグレード体制でエンジンは2ℓ直4、価格は20万円高の319万円だった。半年後にV6搭載車が追加され、2000年にセダン同様マイナーチェンジ。2005年に407へスイッチした。



4/25



ディフェンダー90予約開始

ランドローバー・ディフェンダーが初めて正規輸入されることになり、予約受付を開始した。実際の発売は秋。導入モデルは4ℓV8ガソリンエンジンを搭載した“90”。限定500台で価格は359万円と発表された。ディフェンダーは事実上ランドローバー社の処女作(1948年)で、1989年にディスカバリーが登場するまでは単に“ランドローバー”と呼ばれていたモデル。車名の数字はホイールベースをインチで表したものを(を四捨五入したもの)。2002年には“110”も正規輸入されている。

Photo=CG Library